

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大宮小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

運営に関する計画の最終評価から、学校が様々な取り組みや体験活動を工夫し、学力について成果が出ていることがよく分かった。体力面では、体育科を研究教科に設定したことで、これからさらに児童に力がついていくのでは、と考える。少し課題がみえる部分もあったと考えるので、教職員一丸となり、さらに協力して取り組んでいってもらいたい。今後も大宮小学校の子どもたちのために引き続き、様々な取り組みに継続して取り組んでほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

<p>年度目標：安全・安心な教育の推進</p> <p>【全市共通目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(学力経年調査の質問紙調査(3～6年)において令和5年度93.2%) ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 <p>【学校の年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を、98%以上にする。(令和5年度97%) <p>達成状況の評価に関しては妥当であると考えます。 学校は、子どもや家庭の課題に丁寧に向き合っている。今後も引き続き、一人一人の子どもを大切にする取り組みを進めてほしい。 不登校の子どもがいることを危惧している。来年度からSSRが作られるとのこと。状況が改善されることを望んでいる。 今年度も、地域とともに避難訓練・防災体験を実施したり、地域の力を活用し、様々な体験活動があった。来年度も多様な体験活動を続けてほしい。</p>
<p>年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <p>【全市共通目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(令和5年度82.3%) ○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(令和5年度84.3%) ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え

を深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。(令和5年度36.2%)

- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を68%以上にする。(令和5年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、65.4%)

【学校の年度目標】

- 令和7年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を5ポイント減少させる。(令和5年度は経年調査28%)

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

ここ数年、学力調査の結果が大阪市平均を上回っている。今回、5年生の算数で課題が見つかったが、また、気を引き締めて子どもの指導に向き合っていてほしい。また、今年度から体育を研究教科にせっていたことであるが、体力についても、トップアスリートや講師を招くなどの取り組みを継続して続けていてほしい。地域もできることがあれば協力したい。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

【全市共通目標】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%にする。(令和5年度94%)
- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を10%以下にする。

【学校の年度目標】

- 令和7年度末の本校アンケート調査で、規則正しい生活に関わる項目(早寝、早起き、朝ごはん、メディア)について最も肯定的な回答する児童(メディアにおいては時間)の割合を、4ポイント向上させる。(令和5年度早寝、早起き55%、朝ごはん88%、メディア1時間半より多い40%)

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

学校は、教育環境の充実に向けて積極的にICTの活用を進めている。端末の活用率が100%になっている月もあるようで、普段から端末を活用する習慣が身につけていることが伺える。ただ、学校目標にもあるようにメディア時間はコントロールしてしてほしい。教職員の勤務時間や健康についても留意していただきたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

【安心・安全】【学力・体力の向上】【教育環境の充実】の成果や課題を分析し、今後の目標設定を明確にして、引き続き子どもたちのために取り組んでほしい。来年度は、4年生以上で教科担任制に取り組む話を聞いた。さらに新しい学校教育を推進し、地域に根差した伝統ある大宮小学校として、充実した教育活動を展開してほしいと期待している。

地域も学校のためにできることは連携していきたいと考えている。